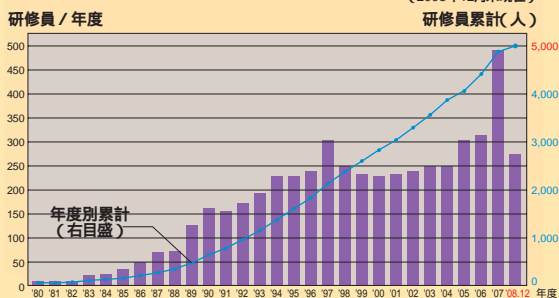


目次

- 2頁 理事長年頭のごあいさつ
- 3頁 北九州市の環境モデル都市選定を受けて
- 4頁 新設研修コース紹介 / 帰国研修員の活躍
- 5頁 海外での活動状況
ロシア、フィリピン、ベトナム、インド
- 7頁 最近終了した研修コースの話題
- 9頁 最近6カ月間に終了した研修コース
- 10頁 KITA / KMEの活動報告
- 11頁 KITAの国際親善交流
- 12頁 Topics



(財)北九州国際技術協力協会海外研修員受け入れ実績
(2008年12月末現在)



海外からの受け入れ研修員 28年で累計5,000人に

KITAは、1980年創設以来 28年目の昨年8月、海外から受け入れた研修員がアジア3,300人、南米600人、アフリカ500人など計130カ国から累計5,000人に達しました。

長年ご支援をいただいている多くの方々への感謝の意を込めつつ、5,000人目の日系ブラジル研修員に記念品を贈り、喜びを分かち合いました。



“ものづくりの原点”

(財)北九州国際技術協力協会
理事長

河野 拓夫

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな夢と希望に燃え、よいお年をお迎えになったことと存じます。本年もみなさまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

旧年中は世界の金融界を震撼させる大きな出来事がありました。根源を突き詰めていくと“金融工学を駆使したデリバティブ”なる言葉に行き当たります。金融そのものは“ものづくり”の血液であり、産業活動には欠かせないものであることは万人の認めるところですが、“このような工学の乱用”が世界の大恐慌を招きかねない状態をつくりだしています。このことは工学に携わる者にとって、誠に不本意なことであります。

さて、歴史をさかのぼれば、人類も原始時代には野生動物と同じく素手で木の実を採り、狩をしていました。今日のような高度の文明・文化を享受できるようになったのは石器の利用に端を発します。やがて火を使い鉄器をつくり、その利用が人々の生活を豊かにし、芸術・文学

など文化の花を開かせました。“ものづくり”の原点はここにあり、その成果は高く評価されるのは当然であります。しかし一方では、一途に“ものづくり”の成果のみを追求し続け、環境破壊を省みない行動が、多くの国で今もなお続いていることは、厳粛に反省しなければなりません。我々の地球はこれ以上の失敗を許さない状態にきています。人類の生活水準をさらに向上発展させつつ地球環境を守るには、グローバルに相互の持てる技術を共有し、人類の叡智を結集するしか残された方法はないと言えましょう。

北九州市は昨年7月に、低炭素社会づくりに先駆的に取り組む「環境モデル都市」として政府から認定を受けました。KITAの基本理念を支える“よりクリーンなものづくり”(Cleaner Production = CP)が、ますます重要性を増してきたと感じています。

新しい年を迎え、私たちは自らの使命を見つめ直し、確かな歩みを続けて行きたいと念じています。皆様方のますますのご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

NEWS&TOPICS

『「エコスタイルタウン2008」出展 市民と交流』 KITA環境協力センター 山家 小百合

北 九州市では、「世界の環境首都」づくりの一環として、2002年より「北九州エコライフステージ」がスタートしました。「エコライフステージ」は、エコライフのより一層の浸透を図るため、年間を通じた交流や情報発信を行い、市民の環境意識の向上や環境行動の促進・強化を目指すものです。KITAは、そのシンボル事業である「エコスタイルタウン2008」(昨年10月4日(土)からの2日間、北九州市で開催)に出展しました。これは、環境活動に取り組む市民団体・NPO・企業などが、日常生活に密着した地球温暖化防止につながるエコライフの提案や日頃の活動のPRを行うイベントです。

KITAのことを多くの市民に知ってもらおうと、パネル展示やクイズ形式でKITAの活動や国際協力事業の紹介を行いました。クイズには250名を超える多くの方々に参加していただき、ブースは大盛況でした。中には熱心に活動内容を質問する方もおられ、国際協力に対する関心の高さを感じました。多くの市民等の方々との交流の場になり、KITAの活動を理解していただく良い機会にもなりました。



若い親子連れがクイズに挑戦

『北九州市の環境モデル都市*選定を受けて』

KITA環境協力センター所長 中 蘭 哲



北九州市は昨年7月、政府から「環境モデル都市*」に認定されました。公害克服、循環型社会づくりなどの環境問題に取り組み、その成果を国内外の問題解決に役立ててきた実績を基に、地球温暖化防止をめ

ざす意欲的な提案が評価されたものです。低炭素社会づくりという新しい課題に先駆的に取り組み、アジア地域に役立てていきたいという想いが提案書のタイトル「アジアの環境フロンティア都市：北九州市」に込められています。

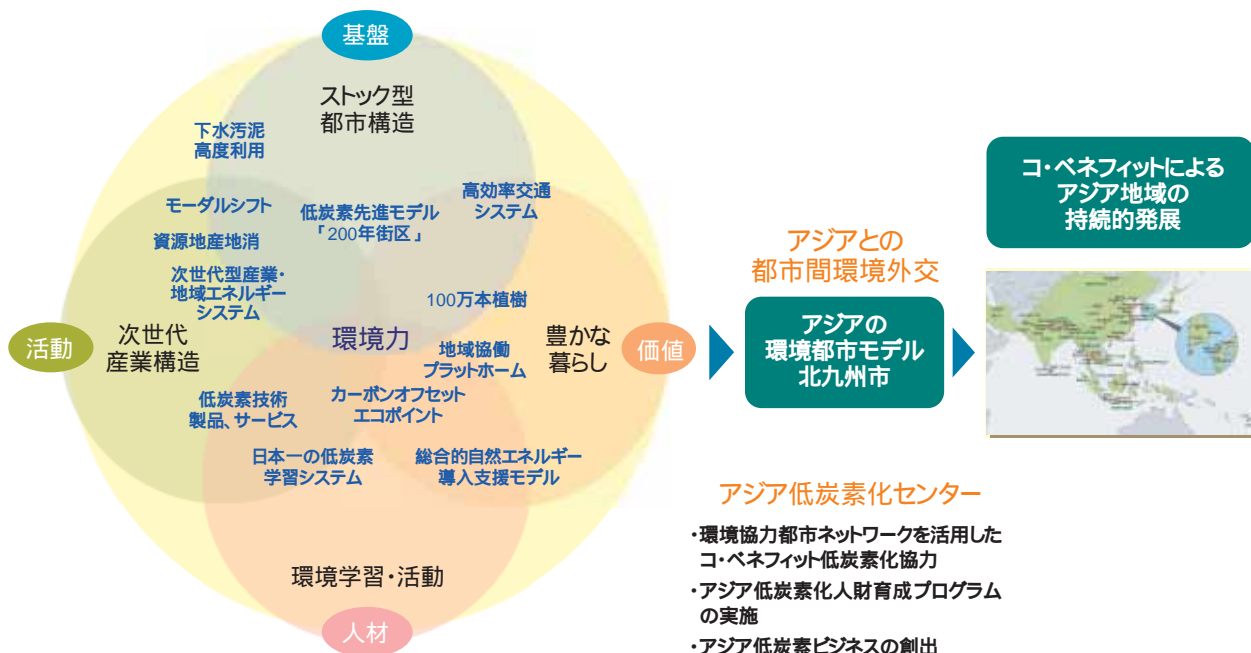
政府の指示を受けて平成21年度から5年間の具体的な取り組みを定めるアクションプランづくりが始まりました。このアクションプランづくりのワーク、盛り込まれた施策の推進、さらにはこうした取り組みを地域、産業の活力として活かしていくため、昨年9月、北九州市環境モデル都市地域推進会議が発足しました。

KITAも推進会議の構成団体として参画しています。KITAはこれまでも、多くの企業・団体のご協力を得て、循環型社会形成推進、省エネルギー技術、クリーナープロダクション技術など、低炭素社会づくりに関する研修プログラムを実施してきました。また、技術協力を通じて市内企業の低炭素技術を活用した国際ビジネスの支援を行ってきました。

環境モデル都市選定を受けて、KITAとしてはこれまでの取り組みをいっそう充実強化し、低炭素技術の世界各都市への移転について貢献すべきと考えています。これまでKITAの国際技術協力を支援して下さっている関係企業・団体といっそうの連携を図っていきたくと思っています。

*環境モデル都市：わが国が世界の先例となる低炭素社会に転換していくため、高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする都市として、政府が認定するもの。

北九州市の「環境モデル都市」への取り組み



『新設研修コース「南東欧地域CP*振興」の紹介～南東欧地域CP活動状況の現地訪問～』

KITAコースリーダー 西野 靖

南東欧諸国5カ国は、国内情勢の安定化とともに、自由主義経済への移行をめざし、EU加盟を国家の最優先政策としています。しかし、電力、鉄鋼、石油化学などの主要産業は生産性と環境面で多くの問題を抱えています。これら問題解決にはCP*が有効であり、昨年11月に掲題の研修コースを開設・実施しました。

本コース開設のため昨年7月に、セルビア、マケドニアの関係機関および両国のUNIDO**/CPセンターを訪問し、意見交換や現地企業の視察を行いました。その結果、当初の研修内容を一部修正し、食品工場の環境対策、省エネ対策事例および中小企業のCP適用事例などの現場見学を増やし、CP振興ニーズに応えるものとなりました。

本コースは、両国のCPセンターの普及活動のスター

トと好時機を得ており、南東欧諸国の持続可能な産業発展に貢献していきたいと考えています。

*CP: Cleaner Production

**UNIDO: 国際連合工業開発機関、United Nations Industrial Development Organization



セルビア国環境省訪問

『新・鉄鋼コース「環境にやさしい鉄鋼製造法」に対する東南アジアの期待～タイ、ベトナムで紹介～』

KITAコースリーダー 上野 正勝

鉄鋼コースはKITAの創設以来今日まで27年間続いてきたコースで、この間、世界各国から244名の技術者が鉄鋼製造技術を学んで帰国していきました。近年の環境問題に対する関心の高まりに呼応して、コースカリキュラムを大幅に見直しました。この新しいカリキュラム案を昨年5月、筆者が東南アジア鉄鋼協会(SEAISI)の年次総会に出席した折に、タイおよびベトナムの鉄鋼協会を訪問、当方の計画を紹介し、それを基に意見交換しました。

タイ鉄鋼協会常務のWikrom氏、ベトナム鉄鋼協会事務局長(現:SEAISI事務総長)のTam氏とも「東南アジアの環境問題は深刻で、鉄鋼の自給率の低さも

問題」と述べられ、「JICA/KITAのコースは東南アジアの鉄鋼業が当面する問題解決にきわめて有用であり、機会があれば是非研修生を出したい」と、強い期待を述べられました。



タイ鉄鋼協会常務Mr. Wikromと面談

『「クリーナープロダクションのための保安全管理」コース 帰国研修員の活躍～研修成果の伝承とアクションプランの充実～』

KITAコースリーダー 石川 隆

昨年1月上旬から4カ月間実施した2007年度の本コースに、ボリビアのMr.Rolando Fuentes Reves(ボリビア国営石油会社YPFB勤務のMaintenance Engineer)が参加しました。彼から帰国後2ヶ月目に早速、同僚やメンテナンススタッフを対象に、日本で研修したクリーナープロダクション実現のためのメンテナンス技術の知見や日本の生活経験を講義しているとのメールを頂きました。

担当の精油所だけでなく、他の精油所までも出掛けて講習会を開いており、受講生の関心は皆非常に高いとのことです。

同研修員の日本での研修終了時のアクションプランは「保全予備品管理システム」で、予備品の最適な分類・

調達方法・保管場所を考えて、改善解決してゆくものであります。また、現在も講義の傍ら、関連した情報収集に努めているとのことで、同プランの更なる充実と大きな成果が待たれます。



研修成果伝承講習会で講義中の帰国研修員

『第3回日露投資フォーラム ~ 環境と投資 分科会 ~ で講演』

技術協力部 工藤 和也 北九州市産業経済局貿易振興課 菅 優子

昨年9月4日から3日間、ロシア・サンクトペテルブルグ市において、「第3回日露投資フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、2005年11月に実施された二階経済産業大臣(当時)と、グレフ・ロシア経済発展貿易大臣(当時)との会談を踏まえ、日本企業のロシア進出および投資の拡大を目的として実施されており、今回で3度目を迎えました。

フォーラムでは、日本からは経済産業省・高市早苗副大臣(当時)が開会挨拶を行うなど、日露経済界のそうそうたるメンバーが顔をそろえ、主に、日本の対露投資環境・投資状況について様々な産業分野より、興味深い報告が次々となされました。

筆者・工藤はフォーラムのセクター別分科会「環境と投資」において、北九州市とロシア・チェリャビンスク州との経済交流について発表しました。その内容は、北九州市・KITAの紹介に始まり、北九州市の公害克服の歴史と環境産業について触れ、チェリャビンスク州との経済交流の経緯や鉄鋼スラグ処理や環境改善等における技術協力、そして今後の鉄鋼・環境分野での技術協力、技術移転などでした。現在、急速な経済発展の代償としての公害問題を抱えるロシアの関係者に変

な驚きと衝撃を与え、好評を博しました。

ロシア全土を見ても、一地域の特色ある日本企業とのこのような経済交流がまだまだ珍しく、先駆的なモデルとして注目されました。

また、「環境と共にある、新しい時代の経済発展と北九州市」を、力強くアピールすることができました。



フォーラム風景



高市経済産業省副大臣の開会挨拶

『ロシア・チェリャビンスク市の「廃棄物処理グランドデザイン」策定への支援』

北九州市環境局環境経済部 内藤 英夫 KITA環境協力センター 佐々木 恵子

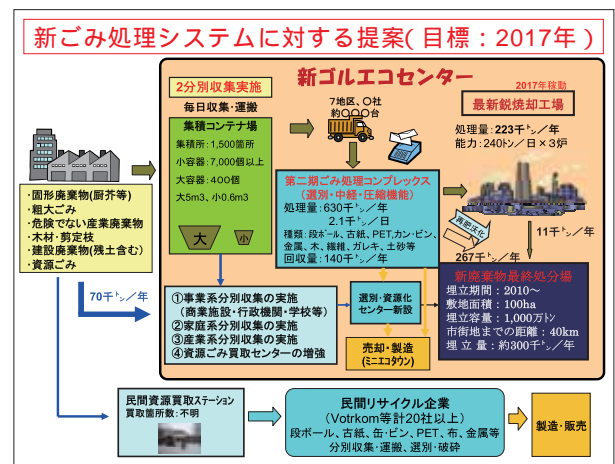
ロシア・チェリャビンスク市は、2006年に始まった北九州市との経済交流の中で、北九州市の廃棄物管理やエコタウン事業に強い関心を持ちました。また、チェリャビンスク市は2003年に環境改善計画を策定し、埋立地新設、焼却工場新設などの改善プログラムを進めていましたが、北九州市のノウハウを導入し、より先進的な計画を策定することにしました。そこで、州副知事を代表としたワーキンググループが「チェリャビンスク廃棄物処理グランドデザイン」を策定しました。なお、本策定にはROTOBO* / KITA・北九州市・民間企業の専門家などが助言・指導を行いました。

チェリャビンスク市では、資源化物の分別回収や焼却処理はしておらず、一括収集したゴミをそのまま埋め立てています。埋立地は市街地に近いという点で国の基準を満足しておらず、浸出水による地下水汚染などの影響が懸念されるとともに、資源回収や減量化が課題となっています。

KITA調査団は、昨年3月以降4回に亘り現地を訪問し、調査・協議を行い、10月には最終提案を報告しました。提案の内容は、発生源での分別回収の導入とリサイクルビジネスの推進 最新鋭焼却炉の新設

による減量化と資源化 環境汚染を防止する管理型埋立処分場の新設 などです。あわせて、先進国にふさわしい廃棄物管理のための環境政策や環境教育、環境ビジネスに関する事例を紹介し、チェリャビンスク側から大変感謝されました。今後、KITAの提案がどのように活かされていくか見守りたいと思います。

*ROTOBO: 社団法人ロシアNIS貿易会、Japan Association for Trade with Russia & NIS



グランドデザイン提案の概要

『フィリピン・セブ市における植樹による環境啓発事業』

KITA環境協力センター 村上 能崇

KITAは(財)イオン環境財団の支援を受け、フィリピン・セブ市において、地元の環境NGO(PCAPI-7)と協働し、昨年9月、環境啓発セミナーの開催と植樹を行いました。

環境啓発セミナーには、地元の大学生ほか約120名が参加しました。フィリピン国の環境資源省やセブの水基金財団の方を講師に招き、森林の働きや生物の多様性について、講義をしていただきました。KITAからは北九州市における植樹の取り組み事例を発表しました。参加者は地球規模で自然と人間が共存できる持続可能な社会づくりの必要性を再認識しました。

植樹には、地元の大学、NGO、セブ空軍から約150名が参加し、セブ市のプヒサン水源池周辺の山林約2haにジャックフルーツなどの果樹や鳥が食する樹木、合わせて6種類約800本を植栽しました。果樹は地元住民にとっても有用な食料になります。また、鳥が食する樹木の植樹は鳥の生息場所を提供し、森林の生態系の多様性が増します。今回植樹した鳥が食する樹木「ベンジャミンゴム」は地元では「バリテ」と呼ばれ、「神が宿る木」と言われています。日本同様、地元の皆さん

が樹木を霊木としてあがめていることはたいへん興味深いことでした。今回の植樹によって、森林の保水性が高まり、セブ市の水源の確保に貢献できると期待されます。参加者は植樹体験を通じて、森林や水資源の大切さを再認識しました。

KITAは今回の事業の協力に対し、地元の環境NGO(PCAPI-7)から感謝状を受けました。



地元の大学生と植樹



PCAPI-7から感謝状を受ける筆者(右)

『ベトナム・ハイフォン市での環境改善活動』

技術協力部 藤本 研一

KITAは、(独)地球再生保全機構の地球環境基金助成事業として、2007年度よりハイフォン市での環境改善活動を行っています。2008年度の環境改善の対象にすべき新規モデル工場を発掘するため、昨年9月、12月には中小の工場を視察するとともに、12月には地域住民を対象にした環境セミナーを実施しました。

2008年度はカウンターパートとしてハイフォン市環境保護協会(HAEP)を選定しました。

1. 新規モデル工場の視察

HAEPと共に、食品加工工場、地ビール製造工場など5工場を視察しました。視察では、「環境問題の種類と程度」、「経営者の環境改善に対する意欲」、「企業規模」などに焦点を当て、モデル工場を選定しました。

視察した工場の中で、地ビール製造工場では新たに「蒸留酒」の製造設備を建設中ですが、この工程の排水処理施設の具体案がまだ決まっていませんでした。しかし、経営者の環境改善意欲は旺盛で、排水処理施設の投資に積極的でした。このため、当工場を今年度の新規モデル工場にし、CP*を適応した排水量の最小化と最適な排水処理技術を推奨することにしました。

2. 住民を対象にした環境セミナーの開催

住民への環境啓発活動として、工場密集地区で環境

セミナーを開催しました。セミナーへの出席者は地域住民、工場代表者、行政関係者など合計71名の参加があり、非常に盛会でした。

セミナーでKITAは「北九州市における公害克服の歴史」などの講演を行い、ベトナム側から大きな反響がありました。北九州市の経験を是非、活かして欲しいと思います。

*CP: Cleaner Production



ハイフォン市環境保護協会の方々



環境セミナーでの講演風景

『インド・鉄鋼コンサルティング「鉄鋼業関連中小企業の発展セミナー」に出席して』

株式会社 九州テクニサーチ 環境ソリューションセンター 佐藤 明史

筆者がKITAから委託されて昨年10月実行した、UNIDO*とJETRO北九州**・KITAのコンサルティング事業について紹介します。

UNIDOは、インド東部のオリッサ州において同州の産業投資支援組織(IPICOL***)などと連携し、製造業の中小企業支援事業を進めています。これは、オリッサ州が鉱山などの天然資源産業に加えて、製造業をより強化したいと考えているためです。

そこで、インド国内外の大手鉄鋼会社がオリッサ州への進出を多数表明していることを受けて、昨年10月18日オリッサ州経済大臣出席のもと、“今後、地元の特に中小企業が、大手鉄鋼会社の補助的業務や、鉄鋼製品を加工する下工程業務において、どのような取り組みをすれば良いか”というテーマについて韓国と日本から専門家が出席し、掲題のセミナーが開催されました。

今回のコンサルティングでは、上記セミナーに出席し、日本の状況を紹介しながら、産業クラスターの形成など、今後のオリッサ州における取り組みについて提案しました。

また、セミナー前後には、オリッサ州の企業を視察し、現状の課題について理解を深めました。これらの知見は、コンサルティングの最終報告に生かしました。

今後は、環境分野なども含めて、オリッサ州と北九州の連携が進むことを期待しています。

*UNIDO: 国際連合工業開発機関、United Nations Industrial Development Organization

**JETRO北九州: 日本貿易振興機構・北九州、Japan External Trade Organization Kitakyushu

***IPICOL: オリッサ州産業振興投資公社、Industrial Promotion and Investment Corporation of Orissa Limited



インド・オリッサ州は緑色の所です

オリッサ州の中小鉄鋼会社のフェロアロイプラント



『「第4回中国・昆明市水環境改善研修」に携わって』

KITAコースリーダー 鶴田 三郎

昆明市は、現在、汚染が深刻な滇池*の水環境改善のため下水処理整備事業をJBIC**の円借款で実施しています。その一環として、KITAは、昆明市政府から同市の下水道事業の人材育成研修を受託し、2007年3月以来8回に分け、総勢90名の研修員を受け入れています。昨年10月中旬の2週間には第4回研修として6名を受け入れました。

今回の研修は、前3回の管理者研修と異なり、実務者を対象とし、下水処理場の運営管理および維持管理を主テーマとしてオンジョブ形式で研修を行い、最終日には研修生と北九州市東部浄化センターの小野所長と柿木係長のほか北九州市上下水道協会(処理場の運転管理)と(株)ケイ・エス・イー(施設管理)の実務者と意見交換を行いました。

さらに、日本の先進的な下水処理場である東京都下水道局の有明水再生センター(高度処理、再生水利用、施設上部のテニスコートなどへの利用)および森ヶ崎再生センター(PFI***による消化ガス発電、小水力発電)を視察し、滇池の水環境改善の参考にするため、滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課および琵琶湖環境科学研

究センターで琵琶湖の水環境保全の現状を研修しました。

この研修により、琵琶湖の水環境保全と北九州市の経験が、昆明市の水環境改善に寄与できることを期待しています。

*滇池(デンチ): 中国・昆明市にある中国第六の淡水湖で、面積は琵琶湖の約半分。

**JBIC: Japan Bank for International Cooperation

***PFI: Private Finance Initiative



北九州市日明下水処理場(北九州市東部浄化センター)の制御室で実務研修

琵琶湖環境科学研究センターで意見交換



『JICA国際研修「アルゼンチン固形廃棄物減量化取り組みコース」を終えて』

KITAコースリーダー 川崎 淳司

アルゼンチン・ブエノスアイレス州は、2006年に廃棄物量を5年間で30%削減するという州法を制定しました。そこで、同州から日本政府に、廃棄物管理の向上と制度強化の協力要請があり、本コースが開設されました。来日研修員は男女3人で、廃棄物減量化計画を策定するブエノスアイレス州政府と州内の二つの市から派遣された行政官でした。

我々が知るアルゼンチンは、サッカー、アルゼンチンタンゴ、肉とワインなど優雅なものですが、彼らが筆者に示した写真は、公園の隅に山積みされた生ゴミや川に投げ捨てられたゴミの山でした。日本での研修目的を彼らの言葉で表現すると「もともとアルゼンチン人はきれい好きで、家の中は清潔です。しかし、家庭ゴミは隣家の前に出し、隣人はまた隣人の家の前に置く」だから「この市民意識を変え、アルゼンチンの風土に合った廃棄物の処分システムを日本の事例を参考にして確立したい」という内容でした。

研修期間は10月1日から半月間の短いものでしたが、研修は廃棄物処理の先端技術ではなく、廃棄物削減のための市民活動、教育、身近なゴミの処分法の紹介な

どに重点を置いて実施しました。特に、教育普及に努めるボランティア活動や教育現場、50%以上の廃棄物を削減した小さな町の視察などが大きなインパクトを与えました。日本で得た知見をもとに作成したアクションプランが、少しでも実現することを期待しています。

NPO法人
エコネットふくおか視察川に投げ捨てられた
ゴミの山
(ブエノスアイレス州)

『JICA国際研修「フィリピン環境管理コース」10年を終えて』

KITAコースリーダー 南 久雄

フィリピン国の環境行政を担当する中堅行政官の環境管理能力向上を目的に、本研修コースが1999年から始められ、10年間、10回に亘る研修を昨年8月に無事終えることができました。今回の10名の研修員を加え、総勢95名の研修員卒業生を送り出しました。この間、ご支援・ご協力下さった関係者の皆様から感謝申し上げます。

今回の10名もフィリピン各地で環境行政の実務を担当する研修員で、各自が現場で抱える様々な環境問題を持参しての研修となりました。全員人柄も良く勉強熱心で、また研修態度も申し分なく、非常に恵まれたやり甲斐ある研修となりました。10年に亘って95名もの優秀な人材を送り出してくれたフィリピン政府の環境当局にもお礼を申し上げます。

10年前、本研修を立ち上げるため、筆者はフィリピン現地で事前調査を行いました。当時のフィリピンは大気汚染や河川の水質悪化など様々な問題が山積み、日本を含め先進各国から支援の手が多々差し出されていましたが、フィリピン政府当局の関心は、主に欧米に向けられていました。

それが現在では、この5年間にフィリピン政府とJICAとの間で廃棄物管理や水質管理など大小4つの

環境改善プロジェクトが締結され、進行するまでに発展しました。このような両国間の関係改善には、10年にも亘る本研修コースの実施が多分に寄与したのではと自負し、また非常に喜ばしく思っています。これらプロジェクトの推進・遂行に、総勢95名の卒業研修員が活躍することを心から願っています。

北九州市日明下水処理場
(北九州市東部浄化センター)
を視察研修員とともに
(九州国際センターにて)

『「サウジアラビア・下水道研修第2回:高度処理・汚泥処理のための処理施設の設計コース」を終えて』

KITAコースリーダー 保田 晴二

昨年7月上旬から1カ月間、サウジアラビアの下水道関係技術者15名を迎え掲題の研修を実施しました。

ところで、真偽のほどは分かりませんが、“同国では、水はガソリンより高価”と言われていています。実際、年間の降水量は50～60mm(ちなみに東京は1,000～2,000mm)で、同国には年間を通して水が流れる川は1ヶ所も無いそうです。また、生活用水の半分以上は海水の淡水化により確保しているそうで、同国は下水処理水の再利用に大きな関心を持っています。

そこで、同国向けに日本の下水処理水再利用に係わる高度処理・汚泥処理の技術・施設に関する研修を開講し、昨年1月には「施設の維持管理」を中心に第1回を実施しました。今回は第2回として「施設の設計」を重点に実施しました。

研修は、北九州市・大学・下水道事業団などでの施設設計の座学、東京都・滋賀県・兵庫県・宗像市の下水浄化施設見学などでした。また、研修目標・ニーズをしっかり持ち、積極的に質問しながら日本の技術をマ

スターしようとする研修員の姿は真摯で意欲に満ち満ちていました。

帰国後は、研修成果を活かして同国の下水道事業の発展に大きく貢献してくれるものと期待しています。

北九州市長を
表敬訪問宗像終末処理場における
下水浄化施設研修

最近6カ月間(2008年7月～12月)に終了した研修コース 2008年12月末 合計186名

研修コース 凡例

JICA 集団研修	JICA 地域別研修	JICA 国別研修	KITA 個別研修
-----------	------------	-----------	-----------

	研修コース名	受託先機関など	KITAコースリーダー/(サブリーダー)	KITA研修期間(月/日)	研修人数
環境対策	産業廃水処理技術	JICA	荒川	7/30～11/21	5
	生活排水対策	JICA	小川/(米澤)	9/4～12/5	10
	南西アジア地域 廃棄物管理	JICA	原口	10/20～12/4	8
	南東欧地域 クリーナープロダクション振興	JICA	西野	11/14～12/18	9
	アルジェリア・工業及び都市環境管理	JICA	城戸	5/26～7/11	10
	フィリピン・都市及び産業における環境管理 環境処理能力向上	JICA	南	5/23～8/7	10
	サウジアラビア・高度処理技術・汚泥処理のための処理施設の設計	JICA	保田	7/9～8/8	15
	KOICA-JICA 大気環境保全管理	JICA	西野	10/6～10/17	13
	KOICA-JICA 東アジア環境省エネルギー政策と技術	JICA	川合	11/26～12/6	16
	アルゼンチン・固形廃棄物減量化取り組み	JICA	川崎	10/1～10/15	3
韓国・中小企業環境経営研修	韓国品質財団	石井/(有田)	9/24～9/27	20	
生産技術、設備保全	中南米・プロセス工業におけるCP(A)	JICA	安部/(福森)	9/1～12/2	5
	インド・省エネルギー技術	JICA	田中/(植山)	11/26～12/19	15
循環型社会推進	中国・循環型社会形成推進研修	JICA	指輪	10/21～11/14	10
	アジア・循環型社会創造(ASEAN・インド)(県)	福岡県	田嶋/(指輪)	11/25～12/19	8
	アジア循環型社会創造(中国)(県)	福岡県	田嶋/(指輪)	8/25～9/19	7
職業訓練、地域活性化、他	持続可能な発展のための職業環境保健マネジメント	JICA	高橋	8/18～12/5	9
	地域活性化研修(日系人対象)	JICA	三木	8/11～8/29	3
アジアの環境人材育成	中国・昆明市水環境改善研修	中国・昆明市	鶴田	10/17～10/29	6
	CLAIR研修(環境保全)	北九州市	-	5/22～12/16	1
	JICA草の根・スリランカ国河川モニタリング研修	JICA	南	10/20～11/14	3

なお、研修コースの詳細、年間スケジュールはKITAのホームページ(<http://www.kita.or.jp/>)でもご覧になれます。

「KITA / 北九州メンテナンス技術研究会 (KME)」平成20年度 総会・講演会開催

KITA生産性協力センター 関 義明

北九州メンテナンス技術研究会 (KME) の平成20年度総会・講演会は、昨年7月17日に北九州市八幡東区の千草ホテルで行われました。

総会では、「KME会長交代の件」として、前任の前川健二氏から7月1日付にて川崎順一氏 (日鐵運輸 (株) 常務取締役) への交代が報告されました。また、「平成19年度事業報告及び平成20年度事業計画 (案)」が審議され、事務局原案通り承認されました。

総会終了後3人の講師による講演会が行われ、会員会社の役員、管理職、技術者69人が出席し、盛会裡に終了しました。演題および講師は次の通りです。

- 「職場改善 産業保健人間工学の知恵と妙技」
産業医科大学 産業生態科学研究所
人間工学研究室 教授 神代 雅晴氏
- 「溶接マイスターによる技能伝承」
エムイーシーテクノ (株)
九州事業所 九州溶接マイスター 山田 哲彦氏
- 「状態監視保全 (CBM) による設備管理技術
三菱化学における現状」
三菱化学エンジニアリング (株)
受託本部メンテナンス技術部 松下 元氏

今回の講演は、日本の人間工学の権威者として有名な産業医科大学の神代教授から、腰痛やヒューマンエラーを防止するための職場での作業改善のポイントなどを実際の事例を交えてご講演いただきました。また、溶接マイスターの山田講師からは若手技術者の意欲をどう高めつつ技能伝承したら良いかについてご自身の経験に基づきご講演いただきました。最後に松下講師からは状態監視保全 (CBM) の概要や実施事例などについて、三菱化学 (株) での設備管理技術への実際の取り組みの具体的な事例を中心にご講演いただきました。



KME総会・講演会

「KITA / KMEセミナー」平成20年度実績 (12月末現在)

セミナー名	講師	実施月日	受講実績	
			会社数	受講者数
疲労・強度	(有)浦島テクノサービス 代表取締役 浦島 親行氏 佐賀大学 名誉教授 西田 新一氏	5月15、16日 5月22、23日	11社	16名
腐食・防食	九州工業大学 准教授 津留 豊氏 日鉄環境エンジニアリング (株) 部長 井上 政春氏 (株)材料・環境研究所 代表取締役 長野 博夫氏	6月13、20日 6月25日 6月26日	8社	11名
溶接技術	九州工業大学 名誉教授 加藤 光昭氏 九州工業大学大学院 客員教授 安西 敏雄氏	7月23日 7月24日	7社	11名
トライボロジー (摩擦、磨耗、潤滑)	早稲田大学大学院 教授 松本 将氏	8月28、29日	12社	19名
制御技術	(株)安川電機 (モーター制御) 久恒 正希氏 同上 (インバータ制御) 山川 孝之氏	9月17日 9月19日	9社	10名
油圧制御	ボッシュ・レックスロス (株) 営業統括部 課長 善如寺 誠氏	11月7日	8社	22名
工場内情報 ネットワーク 構築技術	早稲田大学大学院 教授 李 義頡氏 早稲田大学大学院 教授 吉江 修氏 早稲田大学大学院 准教授 立野 繁之氏	12月1日	5社	8名
設備診断技術	(有)日本診断工学研究所 代表研究者 豊田 利夫氏	平成21年 1月28、29日	4社	6名
合 計			64社	103名

(注) 受講実績の () 内は平成20年12月末現在の受講申込数で合計に含む。

『Give & Takeのホーム・ビジット・プログラム』

ホストファミリー 賀屋 和昭 & 浩子 (北九州市戸畑区在住)

あけましておめでとうございます。

2001年から本格的に北九州に住み始めたとき、新日鉄同期入社の川合君からKITAのホーム・ビジット・プログラムの紹介があり、ホストファミリーに登録しました。

2002年から2008年まで、16研修コース、28人+の研修員と出会いました。各コースの初回は午後2時からスタートですが、2回目からは午前中にスタートして、東は長府、西は博多までがテリトリーです。訪問地は大体こちらにお任せですが、中にはお目当てのデジカメショップや福岡県篠栗町にある南蔵院などのリクエストもありました。私たちの方が年長なので、商店街の散策や日本庭園などでは、「ここで待っているから自由に見てきてね。」と言って無理をしないことにしています。

家での食事は、強い拒否反応がない限り刺身やてんぷらなど日本食を勧めています。丁寧に食材を説明してあげると、怪訝ながらもおいしそうに食べてくれます。どうしても難しそうときには、お祈り済みの鶏肉を仕入れたこともありました。

ホストとしてのお世話は、イタリア、インドネシア、米国に住んでいた頃、現地の人々にとってもお世話になったことのお返しの意味もありますが、外国の研修員という情報を交換すること自体がGive & Takeであると思っています。当方からは日本の歴史・地理、習慣などを話してあげます。壇ノ浦の源平合戦や馬韓戦争についてその時代背景と一緒にモニュメントの前で話すと興味を持って聞いてくれます。彼らからそれぞれの国の文化や暮らし方を聞くことによって、それらに関する知識が増えるとともに関心の度合いも高まり、楽しみのレパトリーの幅が広がっていきます。

このGive & Takeのホーム・ビジット・プログラムを今後も続けて行きたいと思います。

皆さんにとって今年も良い年でありますように!



インドネシア、スリランカからの研修員とホスト夫妻
('08.04.12 北九州市KICで)



イラン、ペルーからの研修員とホスト夫妻
('03.6.15 福岡市大濠日本庭園で)

(財)吉川育英会から助成金をいただきました

(財)吉川育英会(理事長吉川卓志様)から、平成20年9月に、KITAが研修員向けに作成・配布している英文生活情報誌「Enjoyable Kitakyushu」の助成に15

万円をいただきました。ご理解とご厚意に感謝申し上げます。

KITA人事異動 (2008年6月30日~12月31日)

新任

北九州メンテナンス技術研究会 会長……………川崎 順一(日鐵運輸(株)常務取締役)(7月1日付)
コースリーダー(マレーシア 生産性向上)……………力丸 俊二(9月16日付)

退任

北九州メンテナンス技術研究会 会長……………前川 健二(6月30日付)

第8回環黄海経済・技術交流会議に出席して

技術協力部 和田 英二

本 会議は東アジア・環黄海地域における経済発展と交流の深化を目標に、3国政府(日本:九州経済産業局、中国:商務部・科学技術部、韓国:知識経済部)によるコミットのもと、産学官関係者が一堂に集い、2001年から毎年開催されています。昨年は10月20・21日、韓国仁川市にて開催されました。

初日は韓国自動車産業発祥の地GM大宇自動車の工場見学、翌日はビジネスフォーラム(貿易・投資、共同技術開発・新産業創出、人材育成)、大学学長フォーラム(産学官協力モデル構築)、クリーン生産技術(CP)シンポジウムなどが開催されました。最後の全体会議では各フォーラムの成果報告並びに留学生人材育成や環境産業の3国間協力等々に関する提案がなされました。

CPシンポジウムでは、日本側からは筆者の「中小企業におけるCP取り組みの事例」ならびに九州電力の「省エネ取り組みの事例」を発表(各国2件発表)し、パネル討論では会場から両発表に対する活発な質疑がなされ、日本のCP取り組みに対する関心の高さが窺えました。



環黄海経済・技術交流会議風景

JICA九州から鈎持、紅露両氏に感謝状授与される

昨 年10月20日、JICA九州国際センター笠原所長(当時)から研修部の鈎持武泰氏、紅露良次氏に、研修コースリーダーとしての長年に亘る国際協力への多大な貢献に対し感謝状が授与されました。両氏は新日本製鐵(株)でご活躍の後、KITAではそれぞれ設備保全、大気汚染管理のエキスパートとして数多くの研修員の指導に力を注いでこられました。

鈎持氏談 私は新日本製鐵(株)で設備保全分野に従事し、そこでの長年にわたる経験を活かして平成7年より13年間コースリーダーとして途上国研修に携わってきました。このたびの受賞はJICAをはじめ支援して下さった多くの方々のお陰と感謝しています。今回同時に受賞された他団体の方々が各方面でさまざまな活動を通して国際貢献されている話を伺い感激しました。このたびの受賞を励みとして、今後とも微力ながら国際貢献に努めて参りたいと思います。

紅露氏談 私は環境対策コースのコースリーダーを12年間務めて参りました。その間、研修では大学の先生、県や市の職員、企業の技術者など多くの関係者にご協力をいただきました。日本の環境対策技術を途上国の研修員にトランスファーするというやりがいのある仕事を楽しくさせていただきました。これもひとえにJICA、KITAの皆さん、そしてご多忙のなかを快く研修にご協力いただいた皆さんのお陰と心から感謝申し上げます。



喜びのお二人(紅露氏(左)、笠原所長(中央)、鈎持氏(右))

九州経済産業局長から
「平成20年度工業標準化事業功労者」表彰を受ける

K ITAコースリーダーの三木義男氏が、セミナーで工業標準化の認定取得の利点などを説いて回るなどわが国の工業標準化の推進および普及への顕著な功績が認められ、昨年10月30日に他1名の方とともに表彰されました。



KITAニュース

No.31(第31号)

2009年1月1日発行(1月・7月発行)

発行:財団法人北九州国際技術協力協会

編集発行人:事務局長 藤重 宗夫

〒805-0062 北九州市八幡東区平野一丁目1番1号 国際村交流センター4階

TEL:093-662-7171

FAX:093-662-7177

E-mail:info@kita.or.jp

右記Web site(KITAホームページ)には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧ください。

KITA

検索

<http://www.kita.or.jp/>

カチッ!